

2017 平和ノサップ集会 集会アピール

日本固有の領土である択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の北方四島が、旧ソビエト連邦により不法に占拠されてから、今年で 72 年が経過した。この間、日本と対ソ連、対ロシア間との交渉は一進一退を繰り返しつつも、いまだに返還への道筋は見えていない。

これまで、ロシア政府はクリル「社会経済発展計画」において、道路・港湾・空港・学校などのインフラ整備を着実に進めてきた。さらに、2015 年には 2016 年以降の開発に向けた次期計画が決定されたほか、メドヴェージェフ首相が三度目の択捉島訪問を強行するなど、北方四島がロシアの領土であるかのような既成事実化が確実に進行している。

元島民の方々は、故郷復帰への募る思いの中で返還運動に取り組まれているが、戦後 72 年となった現在、平均年齢は 80 歳を超えている。島民の方々に故郷（ふるさと）を、日本に自然の恵み豊かな固有の領土を一刻も早く取り戻さなければならない。

その一方で連合は、若者を中心とした「語り部の継承」にもさらに力を入れ、元島民の方々の平和への思いを未来へ受け継いでいく。

2016 年 12 月の日ロ首脳会談において、北方領土での「日ロ共同経済活動」の協議開始が合意された。私たちは、これを“確かな一歩”とし、「北方領土返還」と「日ロ平和条約締結」へ向けて、決して後退させることなく、一歩、一歩、着実に前進していけるように、今後も諸団体との連携のもとで世論を喚起し、国を挙げて交渉に臨む体制づくりを求めていく。

本日、私たちは、北方領土返還運動・原点の地である、ここ北海道根室市の納沙布岬に全国から集結した。私たちは北方四島の現状や元島民の方々の故郷への強い思い、今後の返還に向けた取り組みなど、本行動を通じて得られたものを地域や職場、そして、自分たちを育ててくれた大切な故郷に持ち帰り、共有化をはかっていく。

そして、北方四島の早期返還と、日ロ平和条約の締結による真の友好関係の構築に向けて、粘り強く運動を展開することをここに誓う。

2017 年 9 月 10 日
連合 2017 平和ノサップ集会